別紙様式4（1）

令和3年7月31日
（前回公表日 令和2年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
八千代リハビリテーション学院	平成16年3月30日	片山　薫	〒276-0031 千葉県八千代市八千代台北11丁目1番30号 （電話）047-481-7320
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人巨樹の会	平成2年3月20日	藤井　茂	〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2丁目1番12号 （電話）092-607-0053

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科（夜間コース）	平成6年文部科学省告示第84号	

学科の目的	人間愛に基づき対象者の共感的理解および受容をし専門的な知識・技術・価値を習得していくことで、包括的医療の一翼を担うリハビリテーションの専門職となる人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成30年2月28日 文部科学省告示　第28号

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4 年	夜間	3120時間	1500時間	720時間	900時間	0時間	0時間
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	139人	0人	7人	23人の内数	52人の内数

学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	■成績表:　有 ■成績評価の基準・方法 ・講義、実習に必要な時間の出席状況と当該科目の評価により行 ・授業科目の評価はA･B･C･Dの4段階とし、C以上を合格とする。
長期休み	■夏　期:8月1日～8月30日 ■冬　期:12月25日～1月10日 ■春　期:3月22日～3月31日	卒業・進級条件	・履修すべき全科目の単位を取得したものについては、学院長が進級及び卒業を認定する。
学修支援等	■クラス担任制:　有 ■個別相談・指導等の対応 正課授業以外にも学習支援を実施。欠席の多い学生は担任より電話連絡、状況確認を行い、保護者との面談も実施。	課外活動	■課外活動の種類 課外活動については、カンボジア研修旅行、地域交流会等（自治会主催の夏祭り、市主催マラソン大会ボランティア参加等） ■サークル活動:　無
就職等の状況	■主な就職先、業界等（令和元年度卒業生） 病院、医療施設、福祉施設等 ■就職指導内容 担任より履歴書の書き方や面接の指導を実施。また、非常勤講師による接遇マナー講座を実施。年3回、就職説明会を学内で開催。 ■卒業者数　19　人 ■就職希望者数　18　人 ■就職者数　18　人 ■就職率　100　% ■卒業者に占める就職者の割合 :　94.7　% ■その他 令和2年度卒業者に関する 平成33年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） 資格・検定名：理学療法士国家資格　種別：②　受験者数：19人　合格者数：18人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄
中途退学の現状	■中途退学者　5　名　■中退率　4.2　% 令和2年4月 1日時点において、在学者119名（令和2年4月 1日入学者を含む） 令和3年3月31日時点において、在学者114名（令和3年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 （例）学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、学校生活への不適応、成績不振等 ■中退防止・中退者支援のための取組 （例）カウンセリング・再入学・転科の実施等 担任、専任教員の面談等によるフォロー、学生相談室（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ）の設置、学修支援、学校行事を通してリフレッシュを図るなど。		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:　無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付:　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:　有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL） 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構　2018年4月1日～2023年3月31日認定		
当該学科のホームページURL	http://www.yachiyo-reha.jp/		

八千代リハビリテーション学院 理学療法学科　　令和3年7月31日

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

理学療法士・作業療法士の教育課程では、学外のリハビリテーション実施医療機関等で臨床実習が行われる。企業等との連携が多く求められるのが臨床実習であり、教育課程編成委員会では、企業委員は臨床実習病院の役職員、専門職団体からの委員、有識者委員を選任し、実務に関する知見、専門職人材の育成、専攻分野の動向などをふまえて、臨床実習を含む教育課程に関する意見を参考に検討を行う。なかでも、産学連携協定を結ぶ実習病院との連携のもと、初年次より段階的に教育機会を設けて、知識技術のみならず倫理・態度の育成に力を入れ、早期より医療人としての資質を高めていく教育のために連携することを基本方針とする。また、企業における最新の技術・知識、必要とされる人材像等の意見を反映し授業内容等の工夫を行い、職業実践により社会貢献できる人材育成につながる教育課程の編成を目指す。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

学校法人巨樹の会では各校に教育課程編成委員会を置き、学科編成や地域状況を踏まえて委員会を開催している。学外の委員に加えて、専攻分野各学科の責任者が委員となり、委員会の意見等は学内の運営会議を経て教育課程の編成に反映させる。今後は、コアとなる教育課程の確認はもとより、PDCAサイクルに則り、専攻分野の職業実践につながる教育課程編成の検討、工夫に反映させていく。また、法人各校との情報交換や連携を進める。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
薄　直宏	一般社団法人　千葉県理学療法士会　理事	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	①
山田　友紘	一般社団法人　巨樹の会　八千代リハビリテーション病院　理学療法士	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	③
稲葉　真己	一般社団法人　巨樹の会　江東リハビリテーション病院　理学療法士	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	③
小竹　貴	株式会社　シダー　関東本部長	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	①
保科　憲幸	一般社団法人　巨樹の会　千葉みなとリハビリテーション病院　理学療法士	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	③
山本　紘子	一般社団法人　巨樹の会　松戸リハビリテーション病院　理学療法士	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	③
松尾　真輔	一般社団法人　千葉県作業療法士会　理事	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	①
川野　将広	一般社団法人　巨樹の会　原宿リハビリテーション病院　作業療法士	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	③
奥川　達也	一般社団法人　巨樹の会　八千代リハビリテーション病院　作業療法士	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	③
片山　薫	八千代リハビリテーション学院　学校長	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員
豊島　宇茂	八千代リハビリテーション学院　副学校長	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員
野見山通済	八千代リハビリテーション学院　副学校長代行	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員
高野　陽子	八千代リハビリテーション学院　事務部長代行	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員
吉廣　伸隆	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務部長代行	令和 3年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員
仲村　匡平	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務主任	令和 3年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員
音琴　慎一	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務部長	令和 3年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員
金平智恵美	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務副主任	令和 2年4月1日～令和 4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者　③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間 2回開催、令和3年度は第1回-9月、第2回-3月に開催。
令和2年度開催日時　第1回　令和2年9月30日（水）　15:30～17:30　　第2回　令和 3年3月12日（金）15:30～17:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
臨床実習を通して、コミュニケーション能力や医療人としての資質に関する教育の必要性を検討し、臨床実習施設からのフィードバックを踏まえ、学内学習における情意領域、技術領域にわたる教育、併せて、臨床実習中のストレス対策を検討していく。「対人関係演習Ⅰ・Ⅱ」の授業により、職業実践場面での演習やチーム医療を学ぶ機会を増やし、グループ病院臨床実習指導者との会議、客観的臨床能力試験（OSCE）への病院職員の協力から得られた意見も検討して教育課程へ反映させていく。新型コロナウイルスの件では、感染症防止に関する教育の重要性が挙げられ、臨床での感染予防、感染者発生の際の対処などの内容を教育課程のなかにも位置付けていく。

（別途、以下の資料を提出）
＊ 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程　＊ 教育課程編成委員会等の規則　＊ 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式3－1
＊ 学校又は法人の組織図　＊ 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校法人巨樹の会は、医療・福祉業界と連携して、臨床実践の場での演習や実習を積極的に進め、臨床で求められる人材を育成し輩出してきた。なかでも、臨床実践教育は、産学連携協定を結ぶグループ病院との連携のもと、初年次より段階的に教育機会を設けて、知識技術のみならず倫理・態度の育成に力を入れ、早期より医療人としての資質を高めていくことを基本方針としている。また、授業内容については、臨床の最先端の技術知識について意見交換し適宜改変を行い、臨床実習指導者を対象にした講習会や会議も開催して、教育課程編成を検討する上での参考としている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

臨床実習は連携病院とのインターンシップを促進する協定に基づき、教育課程編成委員会意見の反映、臨床実習指導者会議の開催をはじめ、診療参加型実習の実践に向けた連携や連絡調整を行う。なお、専任教員は定期的に実習病院を訪問して指導者との連携のもとに臨床教育を実践、実習成績は病院の指導者による成績表をふまえ、提出物なども含め学院にて成績評価を行う。その他、実習・演習科目についての授業内容、実施、成績評価はシラバス等にて確認および連携を図る。学内演習で対象者の理解、医療人としてのルールマナーを学び、最終学年次の臨床実習では、最前線の医療現場を経験し、職業実践に必要な知識技術及び自己研鑽できる姿勢の修得を目指す。また、コロナウイルス感染症対策下での実習については、感染防止から実習受け入れの調整まで、密に連携して可能な限り臨地実習を行えるようにしている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
対人関係演習Ⅰ	医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。また、人間関係の在り方を学ぶとともに他者理解のためのコミュニケーション技法を理解する。	株式会社ホスピタリティリソーセスジャパン 講師　石渡みどり
対人関係演習Ⅱ	人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	株式会社シダー　計15施設
生活機能演習	施設において対象者及び職員への情報収集を行い、対象者の生活場面の観察を行い、トップダウン評価及び治療を学習する。	医療機関、介護保険施設等、計56施設
地域理学療法学演習	地域リハビリテーションにおける社会制度や理学療法士の役割について説明できるとともに地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。	株式会社シダー　関東本部
臨床実習Ⅰ～Ⅳ	各疾患の評価及び治療プログラム立案及び治療までの一連の流れを経験し、理学療法士の思考過程を学習する。	八千代リハビリテーション病院、千葉みなとリハビリテーション病院、松戸リハビリテーション病院、原宿リハビリテーション病院、五反田リハビリテーション病院など、計18病院

（別途、以下の資料を提出）
＊ 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

専攻分野の実務研修、学生への教授力や指導力向上に関わる研修に、参加や研究発表などによる積極的な取り組みを奨励して、医療専門職として社会貢献できる人材育成に役立てることを目指す。臨床実習病院との連携による専任教員の臨床研修、学術大会をはじめ、理学療法士・作業療法士の職能団体等が実施する研修も活用して、専攻分野の実務に関する研修の機会とする。また、指導力修得・向上を図るために、専攻分野における教員養成講習の受講を原則とし、教育機関団体等が実施する研修への参加、外部教育機関や職能団体から講師を招いて行う教育研修も行う。感染症防止により研修の中止やweb開催への変更で研修機会が減少する中では、可能な限り研修機会の確保を図っていく。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1）臨床研修

臨床との乖離を防ぎ、最新の知識、技術、知見を備えて養成教育にあたることを目的に、専任教員の臨床研修を企業連携科目の臨床実習受け入れ病院において、約6か月にわたり2週に一度の頻度で臨床教員研修を行っている。令和2年度はコロナウイルス対策により下記の通り縮小し、一部はオンラインにて実施した。

ⅰ）令和2年4月13日～5月8日は未実施　ⅱ）令和2年5月25日～7月17日は未実施　ⅲ）令和2年8月3日～9月25日に、理学療法学科教員12名が実施。

連携する企業：八千代リハビリテーション病院、松戸リハビリテーション病院、千葉みなとリハビリテーション病院、原宿リハビリテーション病院、新久喜総合病院、東京品川病院
蒲田リハビリテーション病院、五反田リハビリテーション病院、赤羽リハビリテーション病院、小金井リハビリテーション病院、江東リハビリテーション病院
みどり野リハビリテーション病院、新上三川病院、所沢明生病院、明生リハビリテーション病院、宇都宮リハビリテーション病院

2）連携企業グループ学術大会

年2回開催予定の連携企業（臨床実習病院）グループ合同学術大会だが、令和2年度は開催見合わせにより不参加。企業連携科目は臨床実習。

3）職能団体等実施の学会、研修会への参加

リハビリテーション職種の団体、専任教員が所属する学会などの学術大会や研修会に参加。専攻分野の知見を高め、授業内容の充実を図る。

理学療法教育緊急シンポジウム	2020年 5/17（日）	内容：臨床実習代替教育活動	主催：日本理学療法教育学会	会場：オンライン開催	参加 1名
臨床実習指導者講習会	2020年10/31（土）-11/1（日）	内容：臨床実習指導	主催：日本・千葉県理学療法士会	会場：八千代リハビリテーション学院	参加 3名
臨床実習指導者講習会	2020年12/26（土）-27（日）	内容：臨床実習指導	主催：日本・千葉県理学療法士会	会場：国際医療福祉大学成田ｷｬﾝﾊﾟｽ	参加 11名

②指導力の修得・向上のための研修等

学校法人初任者研修	2020年 5/29(金)	内容：学校運営・教育方針について	主催：学校法人巨樹の会	会場：下関看護リハ学校	参加 1名
学校法人管理者研修	2020年 9/11(金)	内容：人事考課の評定基準について	主催：学校法人巨樹の会	会場：下関看護リハ学校	参加 2名
学校法人主任・副主任研修	2021年 3/12(水)	内容：管理職に必要な教育論について	主催：学校法人巨樹の会	会場：福岡和白リハ学院	参加 4名
学校法人中央研修	2021年 3/24(水)	内容：国家試験対策学習について	主催：学校法人巨樹の会	会場：オンライン開催	参加 18名

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1）臨床研修. . . 企業連携科目の臨床実習の受け入れ病院にて、およそ2週に1回の頻度で、令和3年4月～9月の約6か月間、専任教員の臨床研修を実施する。

2）連携企業グループ学術大会. . . 令和3年度の8月と2月、年2回の開催予定の学術研修会に専任教員が参画、出席する。

3）職能団体等実施の学会、研修会への参加. . . 専攻分野、担当授業科目等に応じ、職能団体の学会、研修・講習等の受講をオンラインを含めて進める。

②指導力の修得・向上のための研修等

1）理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会の受講. . . 令和3年度は理学療法学科2名、作業療法学科1名の受講を予定。

2）全国リハビリテーション学校協会　第34回教育研究大会・教員研修会（10月23-24日、福岡県）. . . 理学療法・作業療法の各専攻分野専任教員が参加予定。

3）外部団体が開催する教育研修等の受講. . . 専任教員が受講を希望する研修に参加。

4）学校法人巨樹の会リハビリ専任教員研修、その他外部講師を招いて行う教育研修

・専任教員中央研修	2020年8月予定	内容：学生との関わり方、発達障害の理解も含めて	主催：法人キャリア教育委員会	会場：オンライン開催	参加予定 19名
・専任教員中央研修	2020年8月予定	内容：遠隔授業について	主催：法人カリキュラム委員会	会場：オンライン開催	参加予定 19名
・専任教員中央研修	2020年3月予定	内容：ICT教育について	主催：法人ICT委員会	会場：オンライン開催	参加予定 19名
・主任・副主任研修	2020年3月予定	内容：未定	主催：法人職員教育委員会	会場：オンライン開催	参加予定 3名

（別途、以下の資料を提出）
＊ 研修等に係る諸規程
＊ 研修等の実績（推薦年度の前年度における実績）
＊ 研修等の計画（推薦年度における計画）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することで、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことで、全教職員が学校の状況及び目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①教育理念・目的・人材育成像の明確化　②学生・保護者・学校関係者への周知　③医療・福祉のニーズとの整合性
（2）学校運営	①事業計画の策定　②運営組織・意思疎通機能の明確化　③情報システム化による業務の効率化
（3）教育活動	①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定　②実践教育の視点に立ったカリキュラム教授内容の工夫 ③医療・福祉実践教育の体系化　④授業評価実施体制　⑤教育力向上のための研修の実施
（4）学修成果	①就職率向上への努力　②退学率・留年率低減の努力　③国家試験合格率への努力 ④卒業生の状況を教育活動に反映
（5）学生支援	①学生相談及就職相談に関する体制整備　②学生生活指導及び安全管理に関する体制整備 ③高校や保護者と連携した指導の取組
（6）教育環境	①教材及び教育環境改善の取組　②臨床実習における環境改善の取組　③防災に関する体制整備
（7）学生の受入れ募集	①高等学校等への適切な情報提供　②資格取得・就職状況等の適切な情報提供
（8）財務	①中長期的な学校の財務基盤の安定　②予算・収支計画の妥当性　③会計監査の適切な実施
（9）法令等の遵守	①法令・設置基準等の順守と適正な運営　②個人情報保護対策
（10）社会貢献・地域貢献	①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献　②学生ボランティア活動
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

2019年度の実績より、理学療法士・作業療法士養成指定規則改訂に応じた新たなカリキュラムによる教育推進について確認。学内WiFi環境の整備とIpadを活用した授業の実践などICT教育の導入、教員間授業評価や教育力向上の取組み、防災体制の整備などに関する学校関係者評価ならびに検討結果を活用し、2020年度重点整備目標・計画を作成して、質の高い教育を提供できる体制整備を行っていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
斎藤　剛史	医療法人徳洲会　成田富里徳洲会病院	令和2年4月1日　～　令和4年3月31日	企業等評価委員
田中　朋美	一般社団法人巨樹の会　千葉みなとリハビリテーション病院	令和2年4月1日　～　令和4年3月31日	企業等評価委員
小林　誠	医療法人静和会　浅井病院	令和2年4月1日　～　令和4年3月31日	卒業生評価委員
市角　雄幸	習志野市市議会議員	令和2年4月1日　～　令和4年3月31日	地域評価委員
矢島奈穂美	千葉県立八千代東高等学校	令和2年4月1日　～　令和4年3月31日	高等学校評価委員
奥田　裕	帝京科学大学　東京理学療法学科	令和2年4月1日　～　令和4年3月31日	有識者評価委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。　（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
ホームページ　7月
URL:http://www.yachiyo-reha.jp/

（別途、以下の資料を提出）
＊　学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－２
＊　自己評価結果公開資料　　＊　学校関係者評価結果公開資料（自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書）

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に基づいて、企業等関係者の理解、学校教育の質の保証・向上を図るために、ホームページにて学校の基本的情報、学則、シラバス、実績ほか、情報公開を行う。学校関係者評価に際しては自己評価結果ほか、学生便覧、学校パンフレット等の広報資料、カリキュラム等教育関連資料、教育実績等を提供し、自己評価報告書および学校関係者評価報告書にて公開する。また、連携企業や関連団体に対してホームページその他の媒体でも情報公開を行い、学校関係者への積極的な情報提供、説明のもと、学校運営の透明性を図る。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	①校長名　②所在地　③連絡先　④学校の沿革　⑤学校の特色（教育活動・カリキュラム等）　⑥教育目標 ⑦運営方針　⑧教育指導計画　⑨学校行事計画
（2）各学科等の教育	①入学者選考の方針及び方法　②定員数　③教育課程　④進級及び卒業要件　⑤資格取得 ⑥卒業者数及び卒後の進路状況
（3）教職員	①教職員数　②教職員の組織及び専門性
（4）キャリア・実践的職業教育	①キャリア教育への取組状況　②企業等との授業等の取組状況　③就職支援の取組状況
（5）様々な教育活動・教育環境	①学校行事への取組状況　②課外活動等の状況
（6）学生の生活支援	①生活支援の取組状況
（7）学生納付金・修学支援	①学生募集及び納付金の取り扱い　②就学支援の内容
（8）学校の財務	①資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表
（9）学校評価	①自己点検及び自己評価報告書　②学校関係者評価による改善方策
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
URL:http://www.yachiyo-reha.jp/

（別途、以下の資料を提出）
＊　情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	タカノ ヨウコ	所属部署	事務部
	氏名	高野　陽子	役職名	事務長代行
	所在地	〒276-0031　千葉県八千代市八千代台北11丁目1番30号		
	TEL	047-481-7320	FAX	047-481-7321
	E-mail	yokotaka@yachiyo-reha.jp		

職業実践専門課程 情報公開 別紙様式4(3)

授業科目等の概要

（医療専門課程理学療法学科夜間コース）令和３年度　　八千代リハビリテーション学院

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	対人援助に必要な人の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を養う。リハビリテーションに関わる学習理論を理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			統計学	基礎的統計処理を学習し、理学療法・作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。	3年後期	30	2	○			○			○	
○			情報処理	PCの基本的操作、文章作成、表計算やプレゼンテーション、研究やレポート作成に必要なデータ処理、統計分析手法を学習する。	3年後期	30	2	○			○			○	
○			物理学	人体の運動と物理法則の関係を理解し、リハビリテーションの臨床場面における科学的思考の基礎を養う。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			基礎教養	文章を書く上で基本となる語彙と文法、文章構成を理解する。また、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			対人関係演習Ⅰ	医療専門職への社会的要請、医療人として倫理を理解する。人間関係、他者理解のためのコミュニケーション技法を理解する。	1年前期	30	2		○		○			○	○
○			対人関係演習Ⅱ	人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	1年後期	30	2		○	△	○	○	○	○	○
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能にかかわる骨・筋及び神経系の形態と構造を理解する。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	正常な人体の動物的機能、神経系の形態及び構造、植物系機能並びに意識的感覚や精神機能にかかわる形態・構造を理解する。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	生理学の基礎である細胞生理を理解したうえで、人の生理学的（植物）機能を理解する。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	人の動物性機能を理解する。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			運動学Ⅰ	身体の構造と姿勢保持・運動との関係を理解する。上肢の骨・関節・靭帯・筋、脊柱・胸郭の構造と運動との関わりを理解する。	1年前期	60	4	○			○		○		
○			運動学Ⅱ	下肢の骨・関節・靭帯・筋、脊柱・胸郭の構造と運動との関わりを理解する。姿勢保持機構と正常歩行について理解する。	1年後期	30	2	○			○		○		

○			運動学演習Ⅰ	人体・上肢体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を養う。	1年前期	30	2		○		○		○		
○			運動学演習Ⅱ	人体・下肢体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を養う。	1年後期	30	2		○		○		○		
○			人間発達学	人間の身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解するとともに、各段階の発達課題を理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション基礎医学Ⅰ	運動に必要な栄養学等の諸要素、加齢や不活動の影響、生活習慣病等を学習し、運動の必要性、評価、リスク管理等を理解する。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			リハビリテーション基礎医学Ⅱ	対象者を理解し、他職種と連携してリハビリテーションを行う上で求められる、画像診断や薬物に関する知識、理解を深める。	1年後期	30	2	○			○		○		
○			医学概論	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び病気の診断と治療の概要を理解する。	1年後期	30	2	○			○		○		
○			病理学概論	病気の概念・原因、老化のメカニズムや細胞障害、炎症、免疫、循環障害などの生体反応のメカニズムを理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			整形外科学	整形外科領域のリハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○		○		
○			内科学	内科領域におけるリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			神経内科学	神経内科領域におけるリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			臨床心理学	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法などの心理療法を理解する。	2年後期	30	2	○			○			○	
○			精神医学	精神疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	2年後期	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーションと理学療法Ⅰ	理学療法士、専門職の役割を認識し、プロフェッショナリズム、行動素地を身につけて自らの目標・課題を明確にする。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	保健・医療・福祉の制度や法規、理学療法士やリハビリテーション関連職種の役割を理解し、対象者理解の視点を身につける。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			基礎理学療法学Ⅰ	理学療法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。	1年後期	30	1	○		△	○		○		
○			基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の基礎を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。	2年後期	30	1	○		△	○		○		
○			生活機能演習	医療福祉施設において、リハビリテーション対象者の生活場面にかかわり、専門的視点をもって対象者の生活機能を理解する。	3年後期	30	1		○	△	○	○	○	○	○

○			臨床運動学演習Ⅰ	測定した客観的データに基づく身体運動における関節や筋の活動、生理的反応を確認し、正常な運動の分析とその方法を理解する。	2年後期	30	2		○		○		○		
○			臨床運動学演習Ⅱ	異常な活動・動作を分析し、問題点を客観的に理解し、得られた測定結果に対して考察できるように理解を深める。	3年後期	30	2		○		○		○		
○			理学療法管理学	理学療法部門の職場管理で求められる管理業務や臨床教育の基本について理解する。	4年前期	30	2	○			○		○		
○			基礎評価学演習Ⅰ	理学療法評価・解釈、問題点抽出、実施計画などの思考過程を学ぶ。医療面接、バイタルサインや関節可動域測定を実施し記録する。	1年後期	60	2		○	△	○		○		
○			基礎評価学演習Ⅱ	基礎評価学演習Ⅰの学習内容を踏まえ、理学療法において必要な各種評価項目を理解し、実施および記録する。	2年前期	60	2		○	△	○		○		
○			基礎評価学演習Ⅲ	基礎評価学演習ⅠおよびⅡの学習内容を踏まえ、理学療法の対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録する。	2年後期	60	2		○	△	○		○		
○			臨床評価学演習Ⅰ	検査の実施にあたっての説明、器具や記録の準備・片付け・管理が行え、学修した各検査測定手技を安全に実施できる。	1年後期	30	1		○	△	○		○		
○			臨床評価学演習Ⅱ	検査の実施にあたっての説明、器具や記録の準備・片付け・管理が行え、学修した各検査測定手技を安全に実施できる。	2年前期	30	1		○	△	○		○		
○			運動療法学演習	運動療法学の歴史や位置づけを認識し、運動療法について方法、適応、禁忌やリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できる。	2年後期	60	2		○		○		○		
○			物理療法学	物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施について理解する。疾患に応じた適切な物理療法の選択ができる。	2年後期	30	1	○			○		○		
○			日常生活活動学演習Ⅰ	基本動作遂行に必要な条件、日常生活活動の概念や位置づけその指導を理解する。障害に応じた移動補助具選択、活用を習得する。	2年前期	30	1		○	△	○		○		
○			日常生活活動学演習Ⅱ	日常生活活動の評価の意義および検査方法を理解する。その障害に対する支援、援助方法を理解し実践する。	2年後期	30	1		○	△	○		○		
○			義肢学	切断患者のリハビリテーションを理解するために、切断の原因、義肢の種類、適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。	3年前期	30	1	○			○		○		
○			装具学	装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できる。	3年後期	30	1	○			○		○		
○			中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ	脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。	2年後期	60	2	○		△	○		○		
○			中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ	中枢神経疾患の理学療法学Ⅰの学習内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。	3年前期	60	2	○		△	○		○		
○			運動器疾患の理学療法学Ⅰ	主な骨関節疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法を学ぶ。代表的な骨関節障害に応じた理学療法を理解する。	3年前期	60	2	○		△	○		○		

○			運動器疾患の理学療法学Ⅱ	主な骨関節疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法を学ぶ。代表的な骨関節障害に応じた理学療法を理解する。	3年後期	60	2	○		△	○		○		
○			内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ	代謝疾患・循環器疾患の発生機序と障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	3年前期	60	2	○		△	○		○		
○			内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ	呼吸器疾患・悪性腫瘍の発生機序と障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	3年後期	60	2	○		△	○		○		
○			小児疾患の理学療法学	小児期に発症する疾患の知識、障害像を把握したうえで、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年後期	30	1	○		△	○		○		
○			理学療法学技術演習Ⅰ	知識と技術の統合、対象者の全体像把握、臨床的意思決定能力育成を図り、骨関節疾患の評価、治療までの理学療法を段階的に学ぶ。	3年前期	60	2		○	△	○		○		
○			理学療法学技術演習Ⅱ	知識と技術の統合、対象者の全体像把握、臨床的意思決定能力育成を図り、骨関節疾患の評価、治療までの理学療法を段階的に学ぶ。	3年後期	60	2		○	△	○		○		
○			理学療法学総合学習Ⅰ	臨床実習の経験を元に、専門基礎科目・専門科目の知識の統合を図り、国家試験受験資格に値する総合的な力をつける。	4年後期	60	2	○			○		○		
○			理学療法学総合学習Ⅱ	臨床実習の経験を元に、専門基礎科目・専門科目の知識の統合を図り、国家試験受験資格に値する総合的な力をつける。	4年後期	60	2	○			○		○		
○			理学療法学総合学習Ⅲ	臨床実習の経験を元に、専門基礎科目・専門科目の知識の統合を図り、国家試験受験資格に値する総合的な力をつける。	4年後期	60	2	○			○		○		
○			生活環境学	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。	3年前期	30	2	○			○		○		
○			地域理学療法学演習	地域リハビリテーション、社会制度、理学療法士の役割、他職種の役割、提供されるサービスなどについてその概略を説明できる。	3年後期	30	2		○	△	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅰ	チーム医療について学び、病院で働く理学療法士・作業療法士の業務や役割を理解する。	1年後期	45	1			○	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅱ	医療福祉施設において、対象者とコミュニケーションを図り、情報収集や生活場面の観察を専門的視点をもって実施し、記録する。	3年後期	45	1			○	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅲ	理学療法の意義、理学療法士の役割と機能、チームアプローチ、管理運営を臨床現場において理解し、理学療法場面への介入を図る。	4年前期	360	8			○	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅳ	理学療法の意義、理学療法士の役割と機能、チームアプローチ、管理運営を臨床現場において理解し、理学療法場面への介入を図る。	4年前期	450	10			○	○	○	○	○	○
合計				62科目	3120単位時間（127単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定された者	１学年の学期区分	2期
履修方法：講義・演習・実習により履修する	１学期の授業期間	17週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。